

東海道新幹線の焼身放火：「生活できぬ」容疑者、直前に電話

毎日新聞 2015年07月08日

走行中の東海道新幹線で林崎春生容疑者（71）＝東京都杉並区西荻北＝が焼身自殺し、巻き添えになった女性が死亡した事件で、林崎容疑者が放火直前、車両内から同区役所に「生活ができないから最後のお金を持って新幹線に乗っている」と電話をかけていたことが、神奈川県警の調べで分かった。

県警によると、林崎容疑者の携帯電話を調べたところ、ガソリンに火を付ける9分前の6月30日午前11時21分、同区役所の代表電話への発信履歴が確認された。林崎容疑者とみられる男性は受付の女性に「西荻北の林崎だが、生活ができないから最後のお金を持って新幹線に乗っている。区長と議員にお伝えください」と話した。女性が担当課に電話を回そうとすると切れたという。【村上尊一】

小池氏は「判明した時点で記者会見するなりして国民に説明すべきだった。それをやらずに内部処理ですませようとしたことは大問題だ」とのべ、国民が納得できる十分な説明と流出問題の全容公表を求めました。

新幹線放火容疑者「年金12万円では不足」 区議に相談

朝日新聞 2015年7月6日

新幹線の火災で亡くなった整体師の桑原佳子（よしこ）さん（52）の告別式が横浜市内の斎場で営まれ、参列者が棺を乗せた車を見送った。元同僚の男性（30）は「仕事でつらい時に励まし合った。心の中でありがとうと繰り返した」と話した。

神奈川県小田原市付近を走行中の東海道新幹線で2人が死亡、28人が重軽傷を負った放火事件から7日で1週間。焼身自殺した林崎春生（はるお）容疑者（71）の暮らしぶりが、県警の調べや周辺関係者への取材で明らかになってきた。過去に複数の消費者金融から金を借り入れていたほか、「年金が足りない」などと生活苦を漏らしており、県警は動機の解明を進めている。

「年金は約12万円。貯金はなく、5月分の家賃も住民税も払っていない」。6月12日、ある東京都杉並区議のもとに、そんな電話相談があった。「清掃関係の仕事を辞めたら生活が大変になった。これだけの年金じゃ暮らしていけない」

電話の主は、同区で暮らしていた林崎容疑者。区議とは10年来の顔見知りで、過去に

複数の社から借金を抱え、ローン返済に困った際に相談に訪れていたという。

区議や大家などによると、林崎容疑者は月額12万円程度の年金を受給しており、2Kのアパートの家賃は4万円。その他の支払いを除くと、手元に残るのは4万円ほどだったとみられている。

区議は「生活保護の申請ができるかもしれない。相談に乗ります」と伝えたが、その後、林崎容疑者から連絡はなかったという。

同じころ、岩手県釜石市に住む林崎容疑者の姉（75）にも、年金受給額への不満を口にしていました。姉によると、「なかなかパートが見つからない。どこか雇ってくれないかな」と働く意欲もみせていたという。

県警の調べで、林崎容疑者宅から過去に消費者金融から借り入れがあったことを示すメモが見つかった。県警は、生活苦で将来を悲観していたとの見方を強めており、借金の有無を照会するなどして動機の解明を続けている。

新幹線焼身自殺テロ 年金を35年間払っても生活保護以下

※週刊朝日 2015年7月17日号より抜粋

6月12日には、区議会議員に電話で生活相談をしていた。対応した議員は、『年金が少なく生活が大変だ』と言っていました。生活保護の申請ができるか、今度会って話をしましょうと言いました。後日に日程調整をしようと携帯電話に連絡を入れたのですが、そのときは留守だったんです。折り返しの連絡を待っていたのですが、こんなことになるなんて……」

区議会議員によると、林崎容疑者は数年前にも借金の返済について相談をしていたという。

6月中旬ごろには、林崎容疑者のおかしな言動も確認されている。近所のスーパーの店員が証言する。

「店ではいつも練乳入りのかき氷アイス2個とタバコを買っていました。酒と一緒に買うときは発泡酒やカップ酒が多かったですね。それが事件の2、3週間前に来たときは『これ（酒）がないと眠れないんだよ』と、独り言みたいに小さな声でつぶやいていました」

林崎容疑者の姉（75）を直撃すると、生活苦の悩みを打ち明けられていた。

「6月中旬に電話がありました。年金は月18万円ぐらいもらえてと思っていたら、12万円だった。年金のことでうつになっていたと思う。『国会の前で自殺でもしようか』とも言っていました。最後に話をしたのは事件の1週間前。『アルバイトがまだ見つからなくて』と。お金を貸してほしいと言ってくれれば、貸してあげたのに……」

貧困に苦しむ高齢者の実態を記した『下流老人』の著者で、生活困窮支援のNPO法人「ほっとプラス」代表理事の藤田孝典さんは言う。

「彼は典型的な下流老人です。現役時代の収入が多くなく、貯蓄も底をついた。生活の助けを求めることのできる家族や友人関係もない。こういった人たちが、いざ年金だけで生活する年齢になると、突然貧困層に落ちる。これはまれなケースではなく、私の試算では、高齢者の9割が下流老人になる可能性があります」

林崎容疑者の生い立ちは戦後日本人の典型だけに、他人事ではない。

（本誌・上田耕司、西岡千史）

手当不正受給で消防署長を懲戒処分 徒歩通勤でバス定期代受給 青森

産経 2015.7.7

バス通勤を届け出ているのに実際には徒歩や自転車で通い、手当を不正に受け取ったとして、青森地域広域事務組合消防本部は、中央消防署の小笠原匠署長（58）を減給10分の1（6カ月）の懲戒処分にしたと発表した。処分は6日付。

同本部によると、小笠原署長は昨年4月に自宅から中央消防署までバスで通勤すると届け出て、4月と10月の2回に分け1年分の定期代、計13万7920円を受け取っていた。11月に同本部に匿名の消防職員から情報提供があり、12月に本人が認めたという。

小笠原署長は「自分の通勤時間帯に合うバスがなかった」と話しているという。受け取った手当は今年2月2日付で全額返還された。

父親の死隠し年金不正受給 詐欺容疑で次男逮捕 警視庁

産経 2015.6.19

父親が死亡したのを隠して年金を受け取っていたとして、警視庁城東署は詐欺容疑で、東京都江東区東砂、無職、浜野有弘容疑者（55）を逮捕した。同署によると、容疑を認めている。同署は病気療養中の浜野容疑者の母親（77）も同容疑で書類送検する。

浜野容疑者の父親は平成16年9月に73歳で病死。次男の浜野容疑者らはその後も日本年金機構に父親が生存しているとする嘘の「現況届」を提出し続け、同年12月からの10年間で計約2200万円の年金をだまし取り、生活費や医療費に充てていたとみられる。

逮捕容疑は父親が生存しているとする嘘の「現況届」を日本年金機構に提出し、25年8月～26年12月、年金計約320万円をだまし取ったとしている。

日本年金機構の内部調査で不正が発覚し、今年5月に日本年金機構が刑事告発していた。

半世紀にわたって年金不正受給か、86歳を逮捕 両親死亡を隠し

産経 2015.5.7

死亡した両親の生存を装い年金を不正受給した疑いが強まり、岐阜県警恵那署は7日、詐欺容疑で、同県恵那市長島町正家、無職、鈴木光枝容疑者（86）を逮捕した。約半世紀にわたり総額5千万円以上を不正に受け取ったとみているが、大部分は公訴時効（7年）が成立している。

逮捕容疑は、両親が生きていると装った現況届を日本年金機構に提出して2013年4月～14年12月、約260万円の厚生年金をだまし取った疑い。

恵那署によると、「身に覚えがない」と否認している。鈴木容疑者の父は1968年7月、母は65年4月にそれぞれ死亡した。

亡父の年金150万円詐取で43歳長男を再逮捕 死亡届けず…

「解約方法分からない」と弁明

産経 2014.12.10

静岡県沼津市の住宅で9月に江川岩光さん＝死亡当時（79）＝の白骨遺体が見つかった事件で、岩光さんの死亡を届け出ずに年金をだまし取ったとして、県警沼津署は10日、詐欺の疑いで、同居していた長男で無職の清春被告（43）＝死体遺棄罪で公判中＝を再逮捕した。

再逮捕容疑は、昨年6月ごろに死亡した岩光さんが生存しているように装い、昨年10月から今年8月にかけて、振り込まれた岩光さんの年金計約150万円を詐取したとしてい

る。

同署によると、清春容疑者は「解約方法が分からなかった」とだます意図はなかったと供述。詐取金は生活費に充てていたとみられるという。

清春容疑者は、岩光さんの遺体を放置したとして、10月に死体遺棄容疑で逮捕、起訴されていた。